

梅花短大 家本 修 山陽学園短大 ○ 隈元 美貴子

〔目的〕 被服行動がどのような要因によって形成し、達成されるかは重要な課題の1つである。本研究では、被服行動の過程モデルを明らかにし、その関係構造を検証しようとするものである。これらの関係を明らかにするため、①学習過程や興味の差異によって、被服行動に異なりがあることを明らかにしてきた。②前年の大会では、生活意識・価値観・被服行動に一定の関係が見られることをパス解析モデルを用いて明らかにしてきた。本報では、被服行動の中で購買決定・着用選定に至る過程に着目し、価格・デザイン・流行といった外的要因と内的動機・パーソナリティ・価値観といった内的要因、さらに複合的な生活態度や生活意識といった要因から購買決定モデルを検討したので報告する。

〔方法〕 女子短大生を対象に、集合調査法による質問紙調査を実施した。実施時期：平成2年12月上旬。調査地域・調査対象者は、岡山市内に在住または通学する女子短大生90名。質問項目は、生活意識や生活信条、価値観に関する50項目、衣生活意識に関する28項目、着用行動・購買行動に関する30項目で、いずれもリッカートタイプの5段階評定法である。また衣服購入時の決定傾向は、一対比較法によっている。一対比較法は双対尺度尺度構成法によって、FACTORS SCORE化し計量的分析対象とした。

〔結果〕 ① 双対尺度構成法から購入決定因子として、価格・デザイン（ブランド）・品質が求められた。② 購入決定因子は、パーソナリティ（YG性格特性）・価値観と回帰直線（相関関係）が認められる。③ 生活信条・価値観と、さらに衝動購買傾向は、他者意識（ $r = -.2750, P < .01$ ）等パーソナリティと一定の関係が認められモデルが検証できた。